



### コロナ前と比べて先生の働き方はどう変わったのか！？

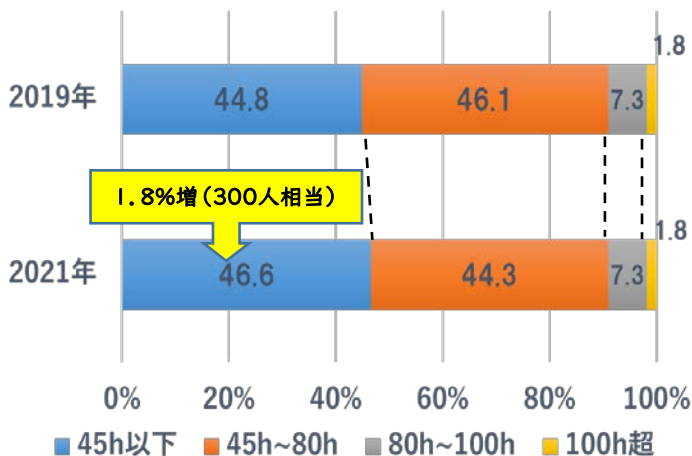
今回は、2年前と比べて教職員の働く時間がどう変わったのかを、4～6月の平均時間外勤務実績の比較より分析しました。  
(※昨年度の4～6月は、コロナ禍による異例の三カ月間であったため、通常の教育活動が行われていた2年前と比較しています。)

- 小学校: 45時間以下の人数が1.8% (300人相当) 増加しています。80時間超については、市の全体平均に大きな改善は見られませんでした。
- 中学校: 2年前から比べると100時間超の人数が8.9% (410人相当) 減少するなど一定の改善が見られています。新型コロナウイルスへの対応や GIGA 開き等の新たな取組がある中で、2年前と比べて一定の改善が見られることは、業務の効率化等の先生方の日々の努力によるものと存じます。一方、80時間超だった教職員について2年前と今年を照らし合わせたところ、約70%が同じ方であることもわかりました。業務の偏在の解消や、何らかの理由により働き方が改善できていない教職員については、さらなる意識改革と支援が必要と考えられます。

個別の学校を見ると、取組の成果が数字となって着実に表れている学校もあるよ。今回は、そんな学校にインタビューしました。



小学校時間外勤務実績 (4～6月実績)



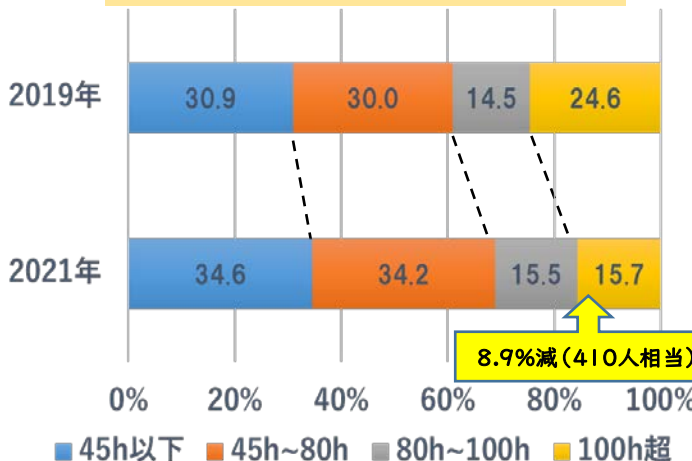
#### A 小学校 (2019年 52H⇒2021年 42H) の取組例

「自分の働き方は、自分で決める」といった問題提起を年度当初に投げかけ、学校教育目標は、子どもたちだけでなく、教職員のためでもあり、先生の Happy が子どもたちを育成することをしていねいに伝えています。教職員は、学年計画等を主体的に考え行動し、お互いの働き方を認め合う雰囲気を作ることができたことが時間外勤務の削減につながったのかもしれない。

#### B 小学校 (2019年 59H⇒2021年 50H) の取組例

働き方研修での分析ツールやストレスチェック等のデータと教職員の意識を連動させていくことが大切だと思っています。一から創り上げる時間のかかる仕事が多くある中、年数を重ねながら、教職員一人ひとりが、目的意識をもって、限られた時間内で自立的に考えて行動していると思います。

中学校時間外勤務実績 (4～6月実績)



#### C 中学校 (2019年 81H⇒2021年 64H) の取組例

働く時間を意識できるように定期的に声かけをしています。部活動もコロナ禍のガイドラインに沿って、全部活動の月間活動計画を廊下に掲示し、下校時刻を意識できるようにしています。部活動指導員を4人配置していることも時間削減の一つのきっかけとなっていると思います。

#### D 中学校 (2019年 68H⇒2021年 60H) の取組例

今年度4月から放課後の活動(部活動を含む)の終了時刻を廊下のホワイトボードに記入して、下校時刻を守るように取組んでいます。先生たちも部活動において、「短い時間で効率よく」という意識が芽生え始めています。下校時刻が早まったことから、教職員の退勤時刻も早まる傾向になりました。

※A～Dの学校は、2年前から校長先生の異動がなかった学校

特別支援学校では、2年前と比べて80時間超の教職員の割合は1.3%減少し、高等学校は、2年前のデータがないため、比較はできませんでした。



4校に共通していたのは、決してトップダウンや超勤時間の数字ありきではなく、教職員一人ひとりが働き方を自分事として考え実践してきたこと、具体的な行動につながる「見える化」をやってきたことと言えます。様々な制約の中で子どもたちのためにできることを実践しているとは思いますが、今一度ご自身の働き方について考えてみるきっかけとなれば幸いです。